

## 令和7年度第5回旭川市地域公共交通会議 会議録

日 時：令和8年2月9日（月）14時から14時45分まで

場 所：旭川市役所総合庁舎大会議室A

### 1 開会

会長より開会挨拶

### 2 議案

#### (1) 議案1「令和8年度第1回旭川市地域公共交通会議開催に係る予算繰越について」

事務局から次の資料に基づき説明し、承認を得た。構成員の質疑等なし。

[資料1] 令和8年度第1回旭川市地域公共交通会議開催に係る予算繰越について

#### (2) 議案2「米飯・豊里地区におけるデマンド交通の次期運行について」

事務局から次の資料に基づき説明し、承認を得た。構成員の質疑等は次のとおり。

[資料2] デマンド交通米飯線及び豊里線の次期運行について

(参考) 米飯線の現運行に係るチラシ

(参考) 豊里線の現運行に係るチラシ

(質疑等)

発言：学識経験者

交通不便地域とは、一般的に、鉄道駅からの距離（例えば1km）やバス停からの距離（例えば500m）で考えているケースが多く、公共交通の利用が困難な地域を指している。利便性の高い旭川駅周辺では、高齢者等移動困難者であっても一定程度の人が、駅1km圏内の居住者は買物や通院などが完結できる環境にある。一方で、郊外部の米飯地区では、人口低密度地域の自宅から1km圏域で生活施設（スーパーや病院など）が少ないことから、単なる駅やバス停からの距離だけでなく、利用者の不便度といった指標も交通不便地域の指標に加えてはいかかがか。

現行のデマンド型運行以外に、昨今の公共版ライドシェアなどの新たな運行形態や、最新技術を取り入れた自動運転など、他の運行形態もあわせて総合的に検討いただきたい。

回答：事務局

豊里・米飯地区以外にも、以前に比べて移動の利便性が低下したという声を頂い

ているが、今回は、豊里・米飯地区のデマンド型運行期間が満了することにより、両地区の次期運行に係る事業の進め方を示した。昨今の事例等も踏まえた他の運行形態もあわせて総合的に検討し、今後、公募型プロポーザル審査会が設置された場合には、審査会で議論することを検討する。

発言：学識経験者

従来の地域公共交通計画においては、自宅と職場の往復を前提とした男性的な移動モデル（通勤中心の単独移動）を標準として設計されており、実際女性の移動は、生活施設への立ち寄り（移動の連鎖）や、日中不規則な時間帯の同伴移動（子どもや高齢者のケア）が多く、性別によって移動の質が根本的に異なることが欧州などで言われている。従来の単一的なモデルに基づく計画に新たな視点を加えた、社会構造の変化に即した計画の再構築が喫緊の課題となっている。また、近年の研究等においては、「ウォークブル（歩きたくなる）な空間づくり」と「バリアフリー」は、一体的に推進されるべき重要な要素と提唱されており、居心地が良く、誰もが自由に動ける環境を整え、そこに公共交通がしっかりと関わることが望ましい。

回答：事務局

地域公共交通計画の次期改定に向けては、構成員の皆さまの知見や専門的な意見を取り入れながら、計画づくりを進めていきたい。

### （3）報告1「豊里線及び米飯線の実績について」

事務局から次の資料に基づき説明し、承認を得た。構成員の質疑等は次のとおり。

[資料3—1] 令和7年度米飯線運行実績報告

[資料3—1] 令和7年度豊里線運行実績報告

（質疑等）

発言：学識経験者

令和5年度以降の運行実績等を表に整理しているが、この数値に対する解釈や判断内容を直観的に把握したいので、報告書にわかりやすく併記して欲しい。

回答：事務局

承知した。

発言：学識経験者

表中の利用者数の増減について、高齢者等移動困難者の利用回数を確認したい。高齢者等移動困難者の利用回数と免許返納状況などをクロス集計することはいかがか（公共交通が自家用車の代替交通として機能しているか（外出を控えていないか）を評価する上で重要）。

回答：事務局

米飯地区の利用者に対して、利用回数や利用目的などに係るアンケート調査を実施した。クロス集計を行うことを検討するとともに、とりまとめが終了した段階で報告する。なお、現時点では、利用者が減少している主な要因は、少子高齢化や高齢者の外出控えが重要な要素として捉えている。

発言：学識経験者

デマンド運行事業者の協力のもと、現行システムに蓄積されたデータを活用した分析を行うことも検討すべきではないか。

回答：事務局

今後の検討の材料とさせていただく。

発言：学識経験者

豊里線について、次期運行に係る議論を行う上で、たとえば、定期路線型で運行した場合とデマンド型で運行した場合を比較できるようなデータが重要になるだろう。たとえば、1人当たりの運行経費を、デマンド型のバス、デマンド型のタクシー、定期路線型のバス、福祉タクシーでの移動のデータと並べて比較するのはどうか。いずれにせよ、単独データではなく、今後の展開に沿ったデータ比較として示していただきたい。

回答：事務局

データの比較は極めて有効であり、今後のデータ分析等においては比較の視点を取り込んでいく。

発言：学識経験者

豊里線の1人当たりの運行経費について、令和5年度は5,232円、令和7年度は5,737円となり、2年間で約500円運行経費が上昇していることが見てとれる。市として、デマンド型交通等を維持する場合に、例えば、1人当たりの運行経費の目安額の基準（価格の妥当性）を持つことが必要ではないか。基準があれば事業を客観的な数値で把握できる。

次期運行に係る議論を行う際に、コストやトリップデータも不可欠な要素であるため情報提供願う。

回答：事務局

今回提示した資料は画一的なデータを示しているが、御意見を踏まえて、多角

的な視点を取りこむなど資料の精度を高める余地がある。

発言：一般乗合旅客自動車運送事業者

現行の豊里線は、通常運行区間とセミデマンド区間で運行しており、予約があれば運行する形態としている。

9月下旬に実施した豊里線の利用状況に関するヒアリングの結果、地域住民、特に高齢者等移動困難者にとって日常生活を支える不可欠な移動手段として強く認識されていることが明らかとなった。

発言：学識経験者

次期運行に係る議論を行う際に、こうした地域住民の切実な要望を単なる主観的な声に留めず、客観的な指標として数値化し、活用して欲しい。

#### (4) 報告2「旭川市地域公共交通会議（書面開催）により議決した内容の報告について」

事務局から次の資料に基づき説明し、承認を得た。構成員の質疑等なし。

[資料4] 旭川市地域公共交通会議（書面開催）により議決した内容の報告

## 4 その他

運輸支局より情報提供

発言：運輸支局

令和8年度の国土交通省の交通に係る取組について紹介する。

交通空白を解消していくために2024年から集中的に取り組んでいる。

交通分野の人材確保の点から、引き続き、二種免許の取得に対して支援するとともに、運転者不足の解消に向けて、退官予定の自衛官を対象とした就職説明会や相談会を開催する予定。

複数の交通事業者等の共同化・協業化による地域交通の持続性確保に向けた車両やシステム、運行費等への支援や、地域公共交通計画や協議会のアップデート等への支援を行う予定。